

平成30年第4回魚沼市議会定例会
一般質問通告者一覧表

質問順	議席番号	質問者	質問方式
12月6日(1日目)			
1	13	佐藤 肇	一問一答
2	1	星 直 樹	一問一答
3	11	大 平 栄 治	一問一答
4	3	星 野 みゆき	一括
5	4	大 桃 俊 彦	一問一答
6	2	浅 井 宏 昭	一括
7	9	佐 藤 敏 雄	一問一答
8	19	遠 藤 徳 一	一問一答
12月7日(2日目)			
9	5	大 桃 聰	一問一答
10	15	高 野 甲子雄	一問一答
11	18	大 屋 角 政	一括
12	16	本 田 篤	一問一答
13	6	大 平 恭 児	一問一答
14	12	渡 辺 一 美	一問一答
15	8	志 田 貢	一括

※一括:一括質問一括答弁。質問を一括して行い、それに対する答弁も一括して行う。

※一問一答:初回は一括質問一括答弁とし、再質問以降は一問ずつ質問、答弁を行う。

平成30年第4回魚沼市議会定例会一般質問通告一覧

平成30年12月6日（1日目）

1番（議席13番）佐藤 肇 一問一答

【メモ】

1. 消費税率10%の影響緩和策を問う

- (1) 消費税増税後の消費落ち込み対策として、国はプレミアム商品券の発行を予定している。これについて魚沼市への予算配分額はどの程度と見込んでいるのか。
- (2) プレミアム商品券のプレミアム率について、国が考えている25%より率を少なくし、その分発行数を増やす方が経済効果として有利と思える。市長の考えはどうか。
- (3) 市発注の物品購入、工事発注も10月以前の入札でも、納品が10月以降となるものについては、入札業者は入札段階で消費税10%で積算して応札することになる。市は積算の段階でそのことを考慮した予定価格設定とするのか。
- (4) 平成31年度は消費税の関係もあり、年度後半の発注が減ることも予想される。市内業者に対する発注は、可能なものは10月以降となるよう、計画をシフトする考えはないか。
- (5) 増税により、平成31年末から平成32年初頭にかけて、市内事業者の運転資金が不足することも危惧される。平成31年度予算には、例年以上に資金融資枠を確保しておく必要があるのではないか。

2. 外国人受け入れ準備を問う

- (1) 現在、市の窓口で何か国語に対応可能なのか。
- (2) 首都圏や大規模製造業立地自治体では、外国人労働者に同伴して来日した妻や子供たちの日本語教育が問題となっている。今後、市としてどのような対策を検討しているか。
- (3) 外国人観光客の対応でも改善を求められている各種看板や表記を英語併記とする対応が遅れている。平成31年度に予算化して整備する考えはないか。

2番（議席1番）星 直樹 一問一答

1. 既存庁舎の利活用について

- (1) ベンチャー企業を誘致し、定住を促進しないか。
- (2) 大学や専門学校に施設を無償で貸し出し、市内の高校生が魚沼で学べる場を設けるべきではないか。

2. 観光客の誘致強化施策について
 - (1) 市内の体育館、グラウンドを整備し、関東方面からの合宿の誘致をしてはどうか。
 - (2) 長期の合宿中に市内で大会を開催し、魚沼の食、文化をアピールし、再来訪を目指してはどうか。
 - (3) 商工観光課にインバウンド、誘客に特化したスペシャリストを置き、観光客誘致を強化してはどうか。
3. 地域住民の不安を解消するため、旧大沢下水処理場の放射性セシウム汚泥の早期処理を
 - (1) 旧大沢下水処理場に保管されている汚泥のうち、市の判断で処分できる1キログラム当たり8,000ベクレル以下の汚泥は、市民の安全安心を確保し、地域住民の不安解消のためにも早急に処分すべきではないか。
 - (2) 「立ち入り防止パネル」の設置を約束していたが、予算がないからと施設の一部にコンパネ製の柵を設置した。風雪に耐えられるのか地域住民は心配している。地域住民の理解を得るためにも、早急に旧大沢下水処理場の周りを鉄製の柵で囲むべきではないか。

3番（議席11番）大平栄治 一問一答

1. 寿和温泉の大規模改修を問う
 - (1) 地域要望に応えるために、現在の露天風呂棟の駐車場側に現在より小規模の内湯を建設し、露天風呂棟の休憩室、玄関等を改修し、コンパクトな温泉施設としてリニューアルするのが良いと考えるがどうか。
 - (2) 市長が考えているような3年がかりの大規模改修を実施しても、施設全体の規模が変わらないため、ランニングコストの大幅な縮減は望めない。コンパクトにすることで、これまで毎年計上している5,000万円から6,000万円の赤字が半分以下になれば、10年程度で建設費は回収できると考えるがどうか。
 - (3) 今後、地域の人たちも積極的に運営に関わってもらえるよう、地域住民との協議会を設け、方向性を決定してはどうか。また、長期的に施設が残せるよう、指定管理なり地元が運営できるような施設設計とするよう求めたいがどうか。
 - (4) 再度、変更設計等を行うためには、1、2年の期間が必要となる。平成31年度、平成32年度に予定している大規模改修を一旦白紙に戻す必要があるがどうか。

(5) 晴天の日に寿和温泉を利用しようと訪問したが、玄関方向から逆光で受付カウンターや廊下が暗く見え、営業しているのかわからない状況だった。節電も大切だが、観光誘客施設としての役割もあることから、過度な節電は逆効果だと思うがどうか。

(6) 寿和温泉施設全体の経費が見えにくい。毎年、寿和温泉源泉及び配湯にどれだけの経費がかかっているのか。また、過去5年程度の収支を資料として示してもらいたい。

2. 入広瀬小学校存続のための方策を問う

(1) これまで入広瀬小学校では、入広瀬中学校や地域の人たちと一緒にスクラム学習を展開してきたが、小学校が単独となったことで、これらの事業はどうなるのか。入広瀬中学校閉校に伴う影響について具体的な方策があるか。

(2) 入広瀬小学校の子供たちの教育を健全な状態で維持するために、地域外からの生徒受け入れも積極的に取り組むべきと考えるがどうか。

(3) 小規模特認校の制度を使い、市外、県外からの児童受け入れができないか。入広瀬地域にある市営住宅や空室となっている教職員住宅を活用し、山村留学のような形で、親子を受け入れる体制を検討してはどうか。

(4) 都会などから児童を受け入れるためには、山村里親のような取り組みも必要だと考える。地域住民に支援をお願いする取り組みを始めてはどうか。

3. 市発注工事の監督員と検査体制を問う

改めて、魚沼市斎場外構等整備工事の検査について問う。

(1) 増額変更となった廃棄物処理並びに沈殿槽水処理は、その数量が確認できる写真がない。廃棄物の数量計算も間違っている。実態がないもので全く検査にならないものを合格させている。全く認めることはできない。誰がどう責任を取るのか。

(2) 一般質問や総務委員会で確認した施工実施日が二転三転している。市監督員は現場監理の実態がなかったと判断するがどうか。

(3) 市の一般財源を使って実施した増額変更工事であり、その証拠を残す義務がある。監督員、検査員は権限があり、写真がなくてもよい、目視でよいと、市長は考えられない答弁をしている。全く市長としての責任を果たしていないのではないか。

4番（議席3番）星野みゆき **一括**

1. 認知症対策について

- (1) 魚沼市で認知症を患っている方の人数を問う。また、その中で65歳以上の高齢者の人数と今後の予想はどうか。
- (2) 認知症サポーター養成講座を開催した小中学校はあるのか。
- (3) 認知症の方を支援するために地域で活動できるような登録システムが必要と思うがどうか。
- (4) 魚沼市として今後、認知症検診の助成に取り組む考えはあるか。

5番（議席4番）大桃俊彦 **一問一答**

1. コシヒカリ紅葉マラソンの発展について

- (1) 第7回コシヒカリ紅葉マラソンの参加者が倍増した理由は何か。維持するために必要なことは何か。また、大会の反省点は何か。
- (2) 市民の健康増進や運動習慣の普及に対して、現状の満足度はどうか。
- (3) 市外、県外の参加者をさらに増加し、魚沼の魅力発信に商工観光課との連携で魚沼市を盛り上げるべきだと考えるがどうか。

6番（議席2番）浅井宏昭 **一括**

1. 山間部の雪について

入広瀬や三ツ又地区のような山沿いの地域では大雪時、もし急病人や火事が起きて救急車、消防車を要請することになっても、雪で坂を上れない、救助に向かえないということになるのではないか。このような時の対応はどのようになっているか。

2. 寿和温泉大規模改修について

- (1) 住民から大規模改修に反対の声はない。寿和温泉のコンパクト化の声もあるが、寿和温泉建設時の補助金の処分制限が完了してからでよいと考える。市長の見解を問う。
- (2) 入広瀬の民宿に合宿が入るとほぼ寿和温泉を利用してもらうようになっており、もしも寿和温泉がなくなれば民宿は経営できないと聞いた。このように宿泊客の面からみても寿和温泉は大事な施設と考えられるが市長の見解を問う。

7番（議席9番）佐藤敏雄 **一問一答**

1. 新庁舎建設後の諸課題について問う

- (1) 新庁舎に移転後、空き庁舎となる旧庁舎の利活用について、民間譲渡も含めコスト削減を最優先に利活用を進めるべきと考える。旧庁舎利活用計画について、市長の見解を問う。
- (2) 庁舎統合により、市民センター窓口は新庁舎と守門庁舎の2カ所だけとなる。市民の利便性を考えれば、JAもしくは郵便局等の窓口へ業務委託する方向での検討が必要と思うがどうか。また、庁舎に出向くことのできない人のために郵送などで各種証明などの交付手続きができるよう支援いただける体制ができないか。
- (3) 定員適正化計画によると、平成31年度退職予定者が36名、32年度35名、採用予定者は平成31年度19名、32年度24名で、うち再任用が平成31年度5名、32年度10名となっているが、現状はどうか。また、新庁舎の完成は事務の効率化による人件費削減の好機と考える。一時的な人材不足は、市内業者に業務委託することで対処すべきかと考えるが、市長の見解を問う。

2. 買い物困窮者対策について問う

魚沼市は、昨年9月に「移動販売事業支援補助金交付要綱」により、高齢化の進展による買い物困窮者の解消に向けた対策を立て、地域おこし協力隊として県外から赴任された方が、退任後の本年度から移動販売事業に取り組んでいる。かつてJAや個人商店等でもこの事業に取り組みながら、厳しい販売環境等で営業の断念をしており、この事業継続の難しさが見えてきた。他自治体の取り組み内容も参考にさらなる支援策の見直しが必要と考えるが、市長の見解を問う。

8番（議席19番）遠藤徳一 **一問一答**

1. 地域づくり中間支援活動組織ネットワーク化に取り組まないか

近年、自分たちの住む地域の活性化に向け、地域のさまざまな人が担い手となって参加し、地域の資源を生かしながら協働参画のもと、新たな職やサービスをつくり出していく地域づくり活動や、活動団体をネットワーク化した中間支援活動が進められるようになってきた。魚沼市も個の分野に精通するだけでなく、各種分野を支援できるよう中間支援活動組織をネットワーク化あるいは法人化し、人的にも物的にも財政的にも行政補

完できる体制を整える必要があると思うが、市長の見解を問う。また、以下の分野について中間支援組織として取り組んではどうか見解を問う。

- (1) ソーシャルビジネスの創出について。山、木、土、水等の地域資源を生かす、また、地域の課題を仕事に変えるなど、仕事、雇用の創出に取り組むべきではないか。
- (2) 特産品の商品企画について。組織化された支援体制があれば、費用のかかる部分を補完しあい、民間同士の人的、財政的支援も可能に思うがどうか。
- (3) 人材育成について。学校教育と社会の求める人材にギャップがあると聞く。企業に必要な人材を企業自ら育成していく必要がある。中間支援組織において、地域で必要な人材に将来投資をする取り組みを行う必要があると思う。ものづくり振興協議会では、学校を訪問し啓発を行っているが、会員も少なくやれる範囲にとどまっていると聞く。ものづくりも支援できると思うがどうか。
- (4) 観光資源の掘り起こしと施設運営について。関係者だけの協議会では裾野が広がらず、行政のみでの支援対策にも限界がある。中間支援組織の中で横断的に取り組む必要があるがどうか。特に市内スキー場や温泉施設など、行政で担いきれない問題も喫緊の課題として取り上げていかなければならない。どのように考えているか。
- (5) 生活弱者対策について。第二行政的組織のネットワーク化が必要だ。コミュニティの課題解決や、中間支援組織による地域活動で買い物支援や公共交通の整備をしていかななくてはならない段階まで来ている。どう考えているか。
- (6) 地域の自立について。各種分野の業態やそれらを横でつなぐネットワーク化と住民の参画により、依存体制を脱却していく必要がある。自立の方向性を出すことが地域の活力を引き出すことにつながる。中間支援組織体制ネットワーク化について市が呼びかけ民間主導でスタートできないか。

平成30年12月7日（2日目）

9番（議席5番）大 桃 聰 **一問一答**

1. コシヒカリ紅葉マラソンについて

9月定例会でも提言したとおり、この事業の所管を商工観光課に移してはどうか。

2. 建設工事の検査について

斎場建設外構等工事にて、瑕疵担保請求の根拠となる廃棄物の写真がほとんどなく、写真では数量が確認できない。市長は、写真がなくても目視で検査に合格すると発言したが、市の検査要綱に違反するのではないか。

3. 観光資源にもなりうる、防草シートと芝桜による法面の景観形成事業について

6月定例会の一般質問で、福井県大野市で行っている畦畔の草刈作業低減のために、防草シートで覆い、そこに芝桜を植えて、景観形成をしている事業を紹介したが、来年度の予算ではどのように考えているか。

4. 小出郷図書館について

購入時にはなかった利用計画がやっとできたらしいが、内容を問う。

5. 市報11月10日号表紙写真について

「不適切と思わせる描写が一部あった」として、ホームページからは削除されたが、全戸配布されて11月22日の全員協議会で市長のお詫びがあった。この写真が選定され、編集、校正、印刷、自治会長に配布までの経緯を問う。

10番（議席15番）高 野 甲子雄 **一問一答**

1. 放射能汚染汚泥等の管理状況はどうなっているか

旧大沢下水処理場に保管されている放射能汚染汚泥等の保管、管理状況はどのようになっているか。また周辺住民への説明などは適切に行われているか。

（1）いつから保管されているのか。

（2）どれぐらいの量が保管されているのか。濃度別に区分けされているのか。

（3）あくまでも仮保管場所という認識でよいか。いつまで仮保管としておくのか。

（4）仮保管のための建物整備、安全対策にどのくらい経費がかかったのか。

（5）現在保管されている放射能汚染汚泥等は7年前の東北大震

災の際、福島第一原発から漏れ出た放射能によるものと考え
るが、その認識でよいか。よいとすれば、その処理は費用も
含め、東京電力が負担するのが妥当と考えるがどうか。

2. 入広瀬地域の人口減少、過疎化対策について

(1) 魚沼市は人口減少と高齢化が進んでいる。入広瀬地域は
顕著であり、少子化による中学校の統合がなされ、小学校の
存続も危惧される。早急に対策が必要と考える。具体的な施
策は考えられているか。

(2) 農業、林業と観光資源を生かしつつ、除排雪作業など
での雇用の確保施策を行政主導で行うことで、人口減少対策を
図るべきと考えるが、市長の見解を問う。

11番(議席18番)大屋角政 一括

1. 消防力の整備について

最近、大きな自然災害等が増えている。これに対応するた
めにも消防職員等の充足を図っていかなければならない。国基
準の職員数と魚沼市の職員数では大きな開きがある。これでは、
防災、災害などに対応する消防力が不安である。なぜ職員数を
国基準に合わせられないのか。

2. 市の広報について

市報の表紙写真に不適切なものが使用され、市民などからク
レームが来ていると聞く。また以前には、主催者等の連絡先を
間違え、主催者側や市民に迷惑がかかったと聞いている。広報
のチェック体制はどうなっていたのか。また、最終責任は誰が
取るのか。

12番(議席16番)本田篤 一問一答

1. ディスポーザーの推進について

生ごみ粉碎機ディスポーザーにより下水道へ流下させる方式
は、循環型社会の形成に向けて一翼を担うものである。南魚沼
市においては、条例を改正しディスポーザーの設置に向けた取
り組みを行うようになったが、魚沼市においては条例の関係も
あり、設置は実質困難となっている。ディスポーザーの推進に
向けて、その可能性を検証すべきと考える。また、条例改正や
補助など政策的な取り組みも検討してみてもどうか。

2. 任期後半の市長ビジョンについて

市長就任以来、ちょうど中間となる2年が経過した。職務を
遂行してきたうえで得た成果と課題はどのようなものか。ま
た、住みよさランキングの上昇など表面的な成果も出てきてい

る一方、人口減少、産業育成、医療福祉など問題は山積している。これらに対する、任期後半の市長ビジョンはどのようなもので、どのような政治手法や施策で取り組んでいくか。

3. 総務委員会報告の扱いについて

総務委員会から斎場における瑕疵担保請求の調査報告書がまとまり、議長に報告された。この報告書を市長はどのように受け止めているか。

13番（議席6番）大平恭児 一問一答

1. 定員適正化計画について

- (1) これまで専門職を含む正規職員削減を行ってきたが、年々業務量が増え多忙化しているのではないか。新庁舎建設に伴い、さらに減らすことを疑問に思う。現状についての認識を問う。
- (2) 専門的な知識や経験を有する職員が適正に配置されないと、制度改正や新規事業にも対応できなくなる懸念がある。また専門性や柔軟な対応がされずに住民から不満も出ている。計画を見直す考えはないか。
- (3) 保健師は、これからの地域包括ケアを構築する上で重要な役割を担っている。訪問を含む保健活動を充実させるために増員を行う必要があると思うがどうか。
- (4) 現状の職員削減計画で、果たして災害に満足に対応できるのか。被災した場合に専門職である土木技師、保健師など必須である。応援をもらうにも東北大震災や熊本地震では、それに応えられていない現状も報告されている。どのような対応を考えているのか。

2. 冬の観光・スポーツの振興について

- (1) 魚沼市として冬の観光やスポーツ振興の計画と方針を明確に示すべきだと思うがどうか。
- (2) スキー場を中心としたウィンタースポーツの環境は、施設や人材も含め他のスポーツにはない充実したものだ。青少年の健全育成や高齢者などの生きがいづくりや健康増進にもつながっている。今後のスキー場の見直しについても、あらゆる面から検討を行ってもらいたいが見聞を問う。
- (3) 市内スキー場の共通シーズン券やリフト券の発行を望む声が強い。前向きに考えられないか。

3. 福祉灯油について

今冬に向かい、原油価格の高騰が続いており、市民生活にも少なからず影響を与えている。特に高齢者など低所得者は厳しいやりくりが続いている。せめて要援護世帯への灯油助成を検討すべきと思うがどうか。

14番（議席12番）渡辺 美 一問一答

1. 魚沼市都市計画マスタープラン・立地適正化計画・地域公共交通網形成計画の連携推進と地域共生社会の関係性について

魚沼市都市計画マスタープラン、魚沼市立地適正化計画、魚沼市地域公共交通網形成計画がどのような位置付けにあり、役割を担っているのか。また、その計画ごとの協議会がどのように機能し、連携しているのか。そして労働力人口が減る中で2040年に向けた持続可能なまちづくり、地域共生社会を実現するために医療、介護、障害等の地域福祉計画と、公共施設再編整備計画と、これら3つの計画をどう結びつけて、実行に移していくのか。市長の見解を問う。

15番（議席8番）志田 貢 一括

1. 電気自動車急速充電器の普及について

市内にも急速充電器が設置されているが、十分な整備がされていると言いがたい。公共の施設への設置、民間事業所への補助など検討してみてもどうか。

2. 市名の変更について

魚沼市においても、合併から時間が経ち、改めて魚沼市という名称の意義について考えてみることも大切と考えるがどうか。また近年、市名に特徴のある名称をつける自治体がある。また合併した市町村においても、改めて名称変更を検討している自治体もある。魚沼市においては小出インターを「魚沼尾瀬」に変えてほしいという声が市民から上がっている。現在の市名と観光面でも特色を考えたい名称である。さらに推し進めて市の名称も、そのメリット、デメリットを検証してみてもどうか。